

PATENT COOPERATION TREATY

PCT

INTERNATIONAL PRELIMINARY REPORT ON PATENTABILITY
(Chapter I of the Patent Cooperation Treaty)

(PCT Rule 44bis)

Applicant's or agent's file reference 0651980	FOR FURTHER ACTION		See item 4 below
International application No. PCT/JP2007/000334	International filing date (<i>day/month/year</i>) 29 March 2007 (29.03.2007)	Priority date (<i>day/month/year</i>)	
International Patent Classification (8th edition unless older edition indicated) See relevant information in Form PCT/ISA/237			
Applicant FUJITSU LIMITED			

1. This international preliminary report on patentability (Chapter I) is issued by the International Bureau on behalf of the International Searching Authority under Rule 44 bis.1(a).

2. This REPORT consists of a total of 4 sheets, including this cover sheet.

In the attached sheets, any reference to the written opinion of the International Searching Authority should be read as a reference to the international preliminary report on patentability (Chapter I) instead.

3. This report contains indications relating to the following items:

<input checked="" type="checkbox"/>	Box No. I	Basis of the report
<input type="checkbox"/>	Box No. II	Priority
<input type="checkbox"/>	Box No. III	Non-establishment of opinion with regard to novelty, inventive step and industrial applicability
<input type="checkbox"/>	Box No. IV	Lack of unity of invention
<input checked="" type="checkbox"/>	Box No. V	Reasoned statement under Article 35(2) with regard to novelty, inventive step or industrial applicability; citations and explanations supporting such statement
<input type="checkbox"/>	Box No. VI	Certain documents cited
<input type="checkbox"/>	Box No. VII	Certain defects in the international application
<input type="checkbox"/>	Box No. VIII	Certain observations on the international application

4. The International Bureau will communicate this report to designated Offices in accordance with Rules 44bis.3(c) and 93bis.1 but not, except where the applicant makes an express request under Article 23(2), before the expiration of 30 months from the priority date (Rule 44bis .2).

The International Bureau of WIPO 34, chemin des Colombettes 1211 Geneva 20, Switzerland Facsimile No. +41 22 338 82 70	Date of issuance of this report 29 September 2009 (29.09.2009)
	Authorized officer Yoshiko Kuwahara e-mail: pt07.pct@wipo.int

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 林恒徳 様		PCT 国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) [PCT規則43の2.1]	
あて名 〒222-0033 日本国神奈川県横浜市港北区新横浜3-9-5 第三東昇ビル3階 林・土井国際特許事務所		発送日 (日.月.年) 29.05.2007	
出願人又は代理人 の書類記号 0651980		今後の手続きについては、下記2を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2007/000334	国際出願日 (日.月.年) 29.03.2007	優先日 (日.月.年)	
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. G06F13/00(2006.01)i			
出願人 (氏名又は名称) 富士通株式会社			

1. この見解書は次の内容を含む。			
<input checked="" type="checkbox"/>	第I欄	見解の基礎	
<input type="checkbox"/>	第II欄	優先権	
<input type="checkbox"/>	第III欄	新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成	
<input type="checkbox"/>	第IV欄	発明の単一性の欠如	
<input checked="" type="checkbox"/>	第V欄	PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明	
<input type="checkbox"/>	第VI欄	ある種の引用文献	
<input type="checkbox"/>	第VII欄	国際出願の不備	
<input type="checkbox"/>	第VIII欄	国際出願に対する意見	
2. 今後の手続き			
国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。			
この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。			
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。			
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。			

見解書を作成した日 21.05.2007			
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号		特許庁審査官 (権限のある職員) 須藤 竜也	51 3051
		電話番号 03-3581-1101 内線 3565	

第 I 欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から国際調査のための言語である _____ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文
(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ 配列表

配列表に関連するテーブル

b. フォーマット 紙形式

電子形式

c. 提出時期 出願時の国際出願に含まれていたもの

この国際出願と共に電子形式により提出されたもの

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの

3. さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲		有
	請求の範囲	1-7	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-7	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

国際調査報告では下記の文献が提示された。

文献1：JP 2002-158673 A (日本電気株式会社) 2002.05.31, 段落番号【0022】～【0028】 (ファミリーなし)

文献2：JP 2003-330836 A (株式会社日立製作所) 2003.11.21, 段落番号【0086】、【0091】 (ファミリーなし)

文献3：JP 2006-113783 A (株式会社日立製作所) 2006.04.27, 段落番号【0034】、【0037】、【0042】～【0045】、図3 & US 2006-0085610 A1 & EP 001647891 A2

文献4：JP 2-259848 A (関西日本電気ソフトウェア株式会社) 1990.10.22, 2頁上右段14行目～下左段3行目 (ファミリーなし)

請求の範囲1, 7に係る発明は文献1に記載された発明により進歩性を有しない。文献1に記載の発明を、公知のクライアントサーバシステムに適用することは当業者にとって容易である。

請求の範囲2, 5に係る発明は文献1, 2に記載された発明により進歩性を有しない。文献2に記載された、送信側で差分データであることを示す情報を転送データに格納し、受信側で該情報に基づいてデータの更新処理を行うという技術的思想を、文献1に記載の発明に適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲3, 4に係る発明は文献1, 3に記載された発明により進歩性を有しない。文献3に記載された、一定期間通信が途絶えた場合や、同期が失われた場合に、初期化を行うという技術的思想を、文献1に記載の発明に適用することは、当業者にとって容易である。

請求の範囲6に係る発明は、文献1, 3, 4に記載された発明により進歩性を有しない。文献4に記載された、送信データに連番を付し、受信時に連番に抜けがある場合にエラーを検知するという技術的思想を、文献1, 3に記載の発明に適用することは、当業者にとって容易である。